
軌跡

わー

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

軌跡

【Nコード】

N2017S

【作者名】

わー

【あらすじ】

1人の男の物語

自分で1人で生きてきていないのに気付き成長する
お話

前編（前書き）

1人の男の物語

自分で1人で生きてきていないのに気付き成長し自分で店を開く
お話

前編

今まで事を・・・そして未来を

ふと。思う

なんで、また

何でこうなったんだって

頑張りとか何か足りないのか？

よくわからん

どうしたら

どうしたらいいんだ？

でも、俺は目標に向けて頑張るしかない

く祖母の死く

高校の時やんちゃ坊主だった。

でも、バアちゃんの前だけは素直になれてた。優しい気持ちにさせる力があつた。

そして、そんなバアちゃんが癌になった

バアちゃんは強かった。

本当に強かった。

今思うとバアちゃんは
分かってたんだな

格好いいよホントに

死ぬ時苦しそうだったのに
最後は苦しいそうに見えなかった。

むしろ、スゴい穏やかで
なによりバアちゃんの顔が
笑ってるように見えた

俺はちつさい時から、ジイちゃん（小学生の時に亡くなってる）バアちゃんが大好きで大好きで仕方がなかった。

そして、何より2人は俺の支えだつたんだ

会いてえなあ

生まれた時は皆笑い我が泣き
死ぬときは我は笑い皆が泣く

これが出来たら人生どんなだったとしても幸せだよ

じいちゃんばあちゃん

俺は出来るかな？

く依頼く

ばあちゃんが亡くなって

前以上に親が家に帰って来なくなった。

元々浮気してたのは知っていたし

そもそも、親を親と思ったことが高校生まで全く無かった。

2人とも朝から晩まで仕事して逢うことは全くなかったし

だから、ばあちゃんとじいちゃんが好きなのかも。
ずーっと近くに居てくれたから

その代わり

親の居ない奴らの気持ちがちよつと分かる
でも、親の居る奴らの気持ちは全く分からなかった。

だからこそ、どちらとも遊んでも途中でついていけなかった。
で、見つけた。

子供なりの逃げ道を

自分を騙し隠し
人には心は見せない

という方法を

親父が家に帰ってこないなんてどうでも良かった。

そんな時オカンが襖を開けて

言っただ

『お父さんを捜して』
って

今にも死にそうな感じで

オカンがクライアントになった。お金は取れないけど

くオカンく

オカンと呼べるようになったのが高校生の後半

初めて親を実感出来た。
簡単な事だった。

それは弁当

毎日作ってるのがオカンだって気づいた事がきっかけだった

ばあちゃんが作ってると思ってた。

でも、違った。

オカンだった。

その瞬間何かが変わった

オカンが弁当を毎回作ってくれたから元に戻れた

胃袋を掴んだら強いな

食の力は強いんだな

〈 搜索 〉

オカンに搜してと言われ

親父を搜し始めた。

まずは周りの仲間に
顔写真 車の車種 歳を伝え
俺も捜し始めた。

そして、仕事をしながら
約3ヶ月休み無く捜し続いていた。

転機訪れた。

車に俺の携帯を忍ばせるのに成功した。

GPS使って親父を見つけた

女の家に住た
子持ちの女と

その後朝まで張ってたなら親父が出て来た。

親父が俺に向けて一言

『お早う御座います』だった

俺に気付かなかった。
複雑だった

オカンには

女の家と家族と親父の居る時間を伝えて

取り合いず終わった。

その後、家族会議をする事になり

親父、オカン、兄、俺、叔父さん
と話すことになった。

開口一番がオカンに向けて

『結婚した時から好きじゃない別れてくれ』
だった

そうだったんだ。

俺達兄弟3人は俗にいう愛の結晶では無かったんだ。

おかんが子供みたいに泣いた
だからキレた

ロクに知らない親父が俺に話しかけた

『お前は頭が弱い』

だつてさ

お前は俺に気付かなかった癖によく言うよ

それに女とは何も無いってさ

バカだね本当に

女の家を調べて仕事場も調べて浮気の裏も取ってるのに

そして、俺の役割は全て終わった。

後はオカンとあいつの話し合いで離婚した。

離婚して少し経ってから兄に親父から

金を貸してくれと電話があったらしい
貸すわけ無いのにアイツ頭が弱いね

女とは別れ

家に戻りたいだとも言ってたらしい。

その間一言も謝罪はしなかったそうだ

く時が経ちく

バイト先で知り会った人に

『ラーメン屋さんで働かないか？』
と誘われた。

飲食店やサービス業に興味があつたので受ける事にした。

その人の良く行くラーメン屋さんの社長が

新しくお店を開くので若くてやる気のある奴を探してる

って事で

俺にお呼びがかかった

この時期は俺は高校の大親友とラップをやって楽しんでた。

ラップは高校からやってたが

この時期は本当に楽しんでやれてた。

ラーメン屋さんの事を伝えたら

『頑張れ!!』と

後押ししてくれた。

食べにも来てくれるとも

そして、ラーメン屋さんの就職が決まり働く日が決まった。

〳店そして店長〳

俺と社長含め3人の社員

あと、バイト・パートで5人
計8人で始まった。

最初の仕事はネギを大量に切ったもう1人の社員と二人で

この人は自己中心的だった。

すぐに、この人とは合わないそうと思った。

なので自分を騙し隠し

この人とは

『仲良くやれる』と

新しく自分を作り上げた。

社長が店長は俺にやってもらう

とずっと言ってくれていた時間が経ち店長が決まった。

俺じゃなかった

何となく予想はしていた。

そうは言っても俺はまだまだ若い力ギ

悔しいし悲しいし

社長に騙されたとも思った。

何でかを聞いてみたくなった。

簡単な答えだった

『若い』

そう

それだけの答え

バイト・パートの1人1人が

『有り得ない』とか

『無理』

とか

『ついて行けない』とか
色々と慰めてくれた。

あの人

店長は嫌われてた

俺与えてくれた役職は

『チーフ』

訳が分からなくなった。

『副店長』とかじゃなく『チーフ』

同情からだと思う

ムカついたし嫌な気持ちになった。

たが

辞める事は考え無かった。
したってくれるバイト・パートもいる

俺に会いに来るお客様も居る

何より接客が楽しかった。

仲間にお客様に
救われた。

～事件～

窃盗の事件が起きた。

パートのおばさんが

お金が無くなった

財布の中身が少なくなった抜かれたと

店長に相談したのが始まりだったらしい。

その後、バイトの女の子も無くなった

立て続けに抜かれたという事件が起きた

そして、店長も

『俺も無くなったと思う』と

俺に話してきた

取られてないのが

俺、社長、バイトの男の子

3人だけだった

店長は俺以外の人に先に聞いたらしく

俺の所に來たのが最後だった。

もちろん全員

『やってない』と

答えたらしい

なぜ『らしい』と曖昧なのは

店長が俺にその事件の話しをするまで

俺はその事実を知らなかった。

俺の事を最初から疑っていたらしい

全員知らないと言う事で

俺が

犯人になった

全く信頼されてなかった

やっと丸くなれたのに

やっと足を洗ったのに

やっと真つ当になったのに

やっと、、

店長の俺を見る眼が
冷たいイヤな眼だった

ガキの頃から見慣れてきた眼なのに
一度丸くなってから見ると

無性に

辛く悲しく

そして、虚しくなる

また、元に戻るのか？

前の自分に、、

～事件後～

辞める決意をした

店長と社長が居るときに
2人にその事を伝えた

店長に疑われた事は伏せて話しは進めていたら

店長が俺に

『辞めるなんて言っな』

『休みをやるから考えろ』と

言ってきた

俺は休みをもらい

違うことを考えた

奴は何か企んでる

それが何であれ見つけてやりたくなった

俺には大親友がいる

大丈夫だと自分に囁いた

休みから戻るとバイト・パートが

よそよそしくなっていた

スゴく働きづらい

キレそうになった時

店長が

自己セミナーのパンフレットを持ってきた

宗教的なものでもあった

コレが俺を辞めさせない理由だとすぐに気付いた。

だから、話を詳しく聴く事にした。

そつから面白いぐらい勧誘する。

『ココをやれば元気になれ昔の体験をプラスに出来る』

『僕の親2人も僕が誘ってやり始めたらスゴく良くなった』

『仕事が楽しくなる』

くだらなかった。

こんなアホに使われて

何よりくだらいのが

『僕はここで気付かされたんだ。めんどくさがりだって』

『それが僕の深層心理なんだ』
深層心理って
そんなものなのか？

そして、良く話を聴く俺に

気分が良くなった店長が言った。

『昔やんちゃで癖が出たとしても俺は許すよ』

なる程

この事件を利用して

コイツは俺を犯人に仕立て
自分だけは味方の状況を作り

俺を自分の犬にしたかったんだな

だから警察を呼ぼうと言った時に断るって

訳が分からない事をしたんだな

俺は決めた

この話をしっかり固めてから社長に伝える事を

奴に好き勝手やらせない

疑うならなら疑え

「事件真相」

社長に伝え

奴が居なくなるまでは

時間はそう掛からなかった

バイト・パートも前に戻っていった

その頃に聞いた話しが

俺にとって

とても、

とても、

複雑だった

犯人は居る

でも、居ない

本当の被害は最初の一件だけ

後は

後は店長を困らせ辞めさせる為

嘘偽りだった

みなは俺が疑われてると
最初の頃知らなかったらしい
なので

立て続けに起こしたと

教えてくれた

気付いた理由が

店長に

『チーフには何も言うな』と

『何かおかしな行動したら教える』と

言われて気付いたらしい

その後

嘘を付かなくなり

俺の休みが重なり

『やっぱりアイツががやったんだと』
店長に言われ

言うに言い出せず

時間が経ち

よそよそしくなってしまったと

みんなは店長が店長でいる事がイヤだったらしい

謝りに来た

嘘付いてる眼では無かった

1人のバイトの男の子だけ何も計画に入って無かった

その子は今思っていると

抜かれ無かった1人だ

彼が一番の蚊帳の外だったから

よそよそしくしなかったんだね蚊帳の外ってイヤな言い方だな

ゴメンな

でも

君には

救われてたよ

ありがとう

前編（後書き）

夢は想像し描き楽しむもの
目標は行動し実行するもの

両方とも

同じなのが

自分でしか出来ないと言う事

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2017s/>

軌跡

2011年10月8日23時24分発行